



緑水会久々の研修旅行!

熊本県立菊池農業高等学校同窓会

緑水会長 工藤 靖成



◇各位におかれましては如何お過ごしでしょうか? 昨年は思いもよらぬ大災害が東北地方を襲い、涙を拭く間もないうちに東電問題が起きました。

全く先の見えない、暗黒の状況下でTPP問題が浮上り日本農業の行く末を熟慮されたことと思えます。

◇この度、政府は戦後の農地解放政策とは異なりますが、農業の大転換政策を発表しました。

今回の目玉は(現段階では確定ではない十一月末)平地での水田の平均一・八ヘクタール所有面積を五年かけて二十〜三十ヘクタールにしEU諸国に接近すること。

若い世代の農業参入を促すため原則四十五歳未満の新規就農者を対象に年間百五十万円の給付金を交付する。

交付期間は就農前の研修期間二年間以内、就農後の五年間以内で、最長七年間とする。…がその要旨です。

◇そこで広大な一区画の平均では日本有数の場所である早稲作を干拓地である諫早地区への研修を行い

ました。

ここは平成元年開始で造成面積九百四十二ヘクタール(農地八百十六ヘクタール)調整池二千六百ヘクタールで露地野菜・施設園芸・施設花卉・酪農・肉牛経営が行われています。

特に特産物として馬鈴薯百ヘクタールが印象的でした。



諫早開拓での記念写真

◇確かに、このような広大な面積の平野部ではEU諸国に近い農業が可能でしょう。

ちなみに、アメリカの一区画面積は四〜五ヘクタール、日本の代表的な印旛沼周辺が七・五ヘクタール、八郎潟干拓が一・二五ヘクタール、ここ諫早干拓も広大なようです。個人所有面積となればオーストラリアやアメリカは例外として

もフランス四十五ヘクタール、ドイツ四十一ヘクタール、イギリス五十七ヘクタールとのことです。で、今回の政策内要では満足とは言えません。

特に中山間地を二十三%も有す

る日本の農業環境や菊池地域の現状を思えば何とも言えない複雑な境地で諫早干拓研修を終えました。しかし、何はともあれ、わが母校菊池農高もTPPに対応できる、時代を見据えた農高として躍進してほしいものです。



菊農フェスタ2011.11.13

◇この度の研修で最も感動したのは「おむら夢ファーム・シユシユ」の事業内容と会社の基本理念でした。一次産業(農業生産)を基本とし二次産業(加工) 三次産業(販売・サービス)の一貫性を確立した掛け算の六次産業を実現していたのです。

地元産の安心・安全農産物を基本素材として「旬」を前面に出した加工品は大変な人気で連日数千人が来客し、正に都市と農村の交流拠点となっています。

最近では結婚披露宴まで手がけているそうです。その引き出物は特性ラベルの付いた焼酎やドリンク、農産物の詰め合わせ等一般企



シユシユ内イチゴ園

業が取り組めない素材で人気抜群とのことでした。専業農家八軒での取り組みでありますが、農業特に旬にこだわった姿勢が多く、賛同者を巻き込んでいるのであり、共鳴し大感動とともに大変な教訓を賜りました。◇第二回目の緑水会ゴルフ大会が今年も行われました。



前回優勝 西村教頭 レプリカを受けとる

皆さん高度な技術者ばかりでレベルの高さを思い知らされました。

皆さん高度な技術者ばかりでレベルの高さを思い知らされました。

◇さて、今年も菊農フェスタが農場内部が歩行者天国となり盛大に行われました。

数千名の来客に混じって蒲島知事・山本教育長・高木県議会議員その付き添いの方々など多数の来賓を迎えての農場開放祭となり、生徒たちも大活躍でした。



蒲島知事 フェスタを見学

当然緑水会も出店しましたが来年は、より多くの方々に出席していただきたいと思っています。例年十月上旬に出店の打ち合わせをしますので、ご希望の向きは事務局までご連絡下さい。

粉骨砕身やってきたつもりだが

校長 川田 博史



平成二十三年も師走を迎え、やがて新しい年がやってこようとしています。私が還暦を迎えたこの

卯年は、3・11の東日本大震災とそれに伴う福島原発の問題で国中が大わらわした年でした。来る年はみんなが幸せを実感できる年になって欲しいと願いながらパソコンに向かっています。九十才をやって迎える母の話では、私の生ま

れた昭和二十六年十月は、超大型のルース台風が我が故郷鹿児島を襲い、生後間もない私は台風で倒

された家から命からがら避難し、難を逃れたのだそうです。その時から六十歳の歳月は経たものの、歴史は繰り返されるとも言います

が、今なお東日本大震災に遭われた地域の方々は復旧復興に向けて大変な思いをしておられることだろうとお見舞い申し上げる次第です。このような最中、国難を乗り越えていくためには現政権に期待するわけですが、復興財源の確保や税と年金の一体改革、ヨーロッパの財政危機と円高など国内外を取り巻く様々な厳しい経済状況をどのように切り開いていくのか、お手並み拝見とばかりは言っておれません。農業教育に携わって生計を営み、その立場から教育問題、

農業問題、食糧問題、国土保全や環境保全に関心を持ってきた身としては、TPPを農業・農村・教育の立場からどのように考えるか、国民のひとりとして、自分の問題として考えなければならぬと思っ

ています。しかし、どのように考へていくのかは行動すればいいのかわからないことでは、TPPの問題はこれから具体的に議論されていくのでしようが、この問題は農業分野ばかりでなく国民生活のあらゆる分野に自由化の波があたかも大震災の津波のように襲ってくるかもしれないと懸念しています。情報化社会とはいえ判断に足る情報が不足しているとの報道があるように、情報を発信する側の意図的発信や受け手の受け止め方の力量不足などが背景にはあるのでしょうか。菊池農高を皮切りに菊池農高を最後に三月末で退職する身の私にとっ

ては、自分なりに精一杯高校教育に携わる職業人として勤めてきたつもりです。退職後の生活は、それなりに安泰かとは思っています。が、悠々自適とは行かないだろうと心配しているところです。教師としての三十四年間、その時その時の目の前の生徒諸君に、精一杯自分なりに真面目にまともなやり方でおれば道は開ける、それを信じてやる以外はないという気持ちで指導してきました。そのことを誇りに思い、振り返ってみれば、

「教育がうまくいかない社会は崩壊する」、「そうなるのは困るので教師としてしっかりした教育をしなければ」、「農業教育のこの場で頑張らねば」、「世界に冠する教育立国の我が国は、人材こそ国の基ぞ」、「教育は百年の計である」という気持ちで粉骨砕身やってきたつもりです。

教職最後の四年間を菊池農高に奉職させていただいたことは幸せでした。創立百八年の歴史の中、これまで本校を巣立って行かれた一万八千有余の卒業生の皆様が母校菊農で過ごされた青春の思い出

をいつまでも大切に胸に抱かれ、現在の菊農に声援を送っていただいていことに心より感謝しています。同窓会緑水会には、今年も本館南側の芝張り、太鼓部の太鼓の補修や生徒志願者確保への援助など多くのご支援を賜っています。この場をお借りして深甚の感謝を申し上げます。今年の本校の活動の様子を二部ご紹介いたしますと、「甦れ踏み出す菊農新時代」をスローガンに二十年ぶりに復活した十月の体育大会、蒲島県知事、山本教育長も来校された「菊農の実りを皆さんへ届けます」五学科の心を一つに「をスローガンにした菊農フェスタ、全国でも珍しい「牛部」の活躍はマスコミにも多く取り上げられ菊農の名をあげてくれています。また三年生は厳しい高校生の就職状況が続く中、現時点で就職決定率八二%と、昨年以上の成果を上げています。進学も国立六名の受験を始め、ほぼ目指す進路が達成できています。菊農に入学したら教室授業、農場実習、寮生活を通して高校三年間で社会で生き抜く力が身につくよう、教職員一丸となって取り組んでいます。地域の方よりあいさつが良くなった、マナーや服装が年々良くなってきているとお褒めの言葉をいただくことも多くなりました。さらに充実した菊農を目指して欲しいと念じます。緑水会もゴルフコンペや研修旅行をなさるなど活動が活発になってきていることを喜んでおります。文科省指定農業経営者育成農業高校として多くの農業後継者を送り出し、蒼生会も二十五年の歴史を刻んできています。最後に同窓生の皆様方のご健康と菊池農業高校のさらなる発展を祈念して校長として最後のご挨拶といたします。今後とも母校へのご支援をよろしくお願いたします。



友情で支えられた絵画個展

坂本 康隆

(昭和42年 農業化学科卒業)



私は、菊池西農業高校と菊池農業高校が統合された昭和三十九年度入学の新生です。最初は泗水町の菊池西校旧校舎まで通学し、現在の菊池農高校舎が建って、途中で移動したと記憶しています。

恩師は主任の坂田昭三郎先生、副担任は後に校長になられた長谷川敏光先生でした。一年から三年間、同じ先生、同じクラスで、とても仲の良い楽しいクラスだったと思います。

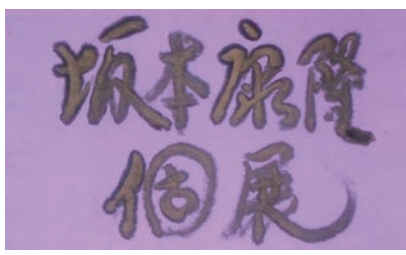
卒業後は各々、思い思いの進学、就職へと旅立っていきました。私も山鹿市の酒造会社へ就職、二年後に定年まで勤めた北九州市の三菱化学株式会社へ転職しました。学校で教わった「化学」の勉強が、仕事でも役に立ち、働きがいのある仕事を見つけたことができた。体格と運動能力で誘われたのがラグビーで、企業のラグビー部として、十年間続けることになり、一方で、大好きな野球をク



ラグビーを辞めた三十歳の頃、関心のあった油絵を始めたのです。独学で始めましたが、限界があり、会社の洋画班に入りました。一緒に学び、スケッチ会や画廊でのグループ展等を通じ、感性を磨いていきました。仕事と趣味そしてスポーツと充実した毎日を送っていました。

長年勤めてきた会社生活も定年退職を迎え、私は延長勤務生活へと入りました。あと三年働いたら、

永年の夢である画家としてスタートしようとして十年後の人生設計も準備し、絵の勉強も時間を作っては、しっかりと頑張っていました。夢は大きく、実現までもう一歩というところだったのです。



寄贈 絵画2点

そんな私が異変を感じたのは、一月頃、いつもの晩酌と夕食が楽しめなくなった私でしたが、胃がもたれ、気分の悪い日が三カ月程続きました。家族が検査を勧めても、大丈夫だと思いつつ真剣に受け止めていませんでした。遂に胃カメラの検査を受け、スキルス胃癌でレベル4、転移もありと残酷な告知を受けました。後で妻にだけ、余命の告知までされたそうです。しばらく現実を受け止める事ができず、落ち込みました。時すでに遅し、今更後悔しても仕方ありません。これから残された時間を

どう生きていこうか、考え続けました。癌は死亡率が第一位で、私の残り時間は余り無いと直感し、病氣と戦いながら、精一杯生き抜こうと思いました。

定年後は、あれもやりたい、これもやりたい、いっぱい夢を持つていたのですが、突然、全く予告なしで、自分の命の短さを知らされたのです。私は負けたくない、自分に言い聞かせ、今から、今日から夢の実現に向けて、妻と歩こうと思いました。

自分が一番好きな事、それは、絵を描くことです。私の絵を喜んでくれたらと、ペットアート工房をオープンし、好評で注文も沢山いただき、画家として充実した毎日となりました。病氣と共存し、自分を見失わないように、平常心

向けて全力で準備に入りましたが、その間、同級生達が何度も北九州へお見舞いに来て励ましてくれて、体力的にどんどん弱くなっていく私とても良い特効薬となりました。本当にありがたいことです。

長年離れていたのに、友人達の優しさに打たれ、妻と喜びの涙を何度流したことでしよう。友人、同級生、周りの沢山の方々に支えていただいていることを毎日実感しながらの感謝の日々でした。全国の中学、高校の同窓生へ案内状を送付する時、皆さんの顔を思い出しながら、一人ひとりコメントを入れることも楽しい時間でした。

三月十一日、あの天災とは言え、胸をえぐられる様な悲しい東日本大震災が発生し、私も何か手助けしたいと強く願いました。今の

私には、一人でも命を救って下さいと祈るしかありません。三日目にやっパンを食べている被災者の方々のテレビ放送を見て、個展での収益金を義援金として送ろうと決めました。私自身も、一人では生きてゆけない、いつも誰かに支えられていることを、病氣になって感じたからです。同級生が教えてくれました。関東に住んでいる友人達は「大丈夫ですか？大変でしょうが頑張ってください」と案内状に書き添え発送すると、「同級生の中から芸術家が出るとは、嬉しいよ」と逆にお返事をいただき、嬉しく思いました。

大変驚いた事に個展を成功させる為に、菊池、山鹿と同級生数人が、手分けしてポスターを掲示して回って下さっていることを知り、頭が下がる思いでした。個展開催期間中も、受付、片付けと、色々な事を助けてくれて、私の体の事を気遣い、多くの方々に声をかけて、初日から華やかなスタートを切ることができたのです。収益金は全て東日本大震災の義援金にするとの趣旨にも賛同して頂き、多くの方に私の絵が届くことになりました。予想を上回る事態に驚き皆様の温かい支えに、毎日感動の涙を流しました。卒業以来初めて逢う人もいて開催期間中は同窓会の様です。あの頃の顔に戻り、昔話に花を咲かせ、言葉では語り尽くせない感動でした。

今回の個展を通じて一番感じた事は、四十三年も離れた存在でありながら、一致団結して協力してくれた友情の尊さ、深さを感じたことです。今現在高校生活を送っている皆さんにはっきり言えることは、今皆さんは、友情を築いている真っ最中であるという事、今の友人達がきっと将来も支えてくれるという事、そのことを信じて、クラス員と大切な時を過ごして欲しいです。高校生活を一日一日楽しんで下さい。

個展開催決定から終了までに友情に感謝する涙を妻と何度も流しました。今でも思い出すと胸が熱くなります。友情のすばらしさを六十二歳で改めて知りました。友情に支えられて、私も少し社会貢献できたことを幸せに思っています。決して私一人ではできなかったことで、支えていただいた沢山の方々に感謝の気持ちを贈りたいです。

今回展示した作品の中から二点を校舎の一角に展示して頂くことになり、大変光栄に、有難く思っています。皆様のご活躍を祈っています。チャレンジする心を忘れず、生き抜いて下さい。

今回原稿をお願いしていただきましたが、平成二十三年夏にお亡くなりになりました。故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(同窓会一同)

(合掌)

頭が下がる思いでした。個展開催

平成23年緑水会事業報告

- 2月23日 監査・役員会
- 2月24日 明日からの宮農を語る会
- 2月28日 同窓会入会式及び卒業記念品贈呈
- 3月1日 卒業式
- 3月13日 緑水会 総会
- 4月8日 入学式・役員会
- 4月15日 合志市 市議会議員 立候補推薦状
- 4月20日 小国町・南小国町 町議会議員 立候補推薦状
- 4月24日 植木支会 総会
- 4月29日 大津支会 総会
- 6月10日 蒼生会 総会
- 7月8日 学校評議委員会
- 7月20日 木村先生白寿祝記念講演会
- 8月28日 第2回緑水会ゴルフ大会
- 10月8日 体育大会
- 10月12日 木村利幸先生ご逝去
- 11月13日 菊農フェスタ
- 10月26日 三役会・古庄さん(研修旅行計画)
- 11月28日 韓国ヨジヨ自営農業高校来校
- 12月7日 研修旅行(長崎)

☆激励賞に田畑さん(農業科2年) 毎日農業記録賞(毎日新聞主催)

「ダイコン畑からのメッセージ」と題する作品で「ダイコンプロジェクト」に吉富保育園児らと取り組んだ。食物を育て、食べることで「命をいただく」こと等の経緯を紹介した。

☆坂本康隆さん(S42卒)より 花房寮へ絵画2枚寄贈

上部写真 八月二十八日(日)肥後サンパレーカントリークラブで開催しました。約五十名の参加者があり、天気にも恵まれ和気あいあいの中で楽しくプレー、親睦を深めていただきました。

☆緑水会研修旅行

十二月七日、八日の二泊二日、久々の研修旅行が行われました。大変忙しい時期にも関わらず、十六名の会員に参加していただきました。



平成23年3月卒業生 進路数一覧表						
科	男女	自営	就職	進学	その他	合計
農業科	男子	0	11	11	2	24
	女子	0	2	0	2	4
	計	0	13	11	4	28
園芸科	男子	0	7	6	2	15
	女子	0	8	6	0	14
	計	0	15	12	2	29
畜産科	男子	1	3	8	5	17
	女子	0	4	16	2	22
	計	1	7	24	7	39
食品化学科	男子	0	6	9	2	17
	女子	0	10	8	3	21
	計	0	16	17	5	38
生活文化科	男子	0	0	0	0	0
	女子	2	16	14	4	36
	計	2	16	14	4	36
合計		3	67	78	22	170